

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871100263
法人名	社会福祉法人 北条福祉協会
事業所名	グループホームなぎさ
所在地	松山市北条辻1170-22
自己評価作成日	平成22年10月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年12月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

東には雄姿な高縄山、西には中島や興居島をはじめとする瀬戸内海の島々を望むことができる風光明媚な場所に位置しています。窓を開けると、潮騒が聞こえ、ほのかに漂ってくる潮の香りは心を癒してくれます。入居者が楽しみにしている食事について、魚は鮮魚店、肉は精肉店、野菜は八百屋から地元の新鮮な食材を取り入れ、利用者の意見を聞きながら、いつもおいしいと言われる食事作りを目指しています。行事を通じて地域との関係を深めながら、「穏やかな環境作り」を進め、家庭的な安全・安心のある楽しい日々を過ごしています。健康管理や病院受診については、家族との連絡を密にし、家族との意向に沿って受診をしています。また、重度化に対応するために、早期から終末期のあり方について方針を共有しています。家族や地域との交流行事(忘年会、いもたき会)は、利用者の大きな楽しみの行事として定着しています。今年のいもたき会には入居者、家族、地域、職員を含めて90名余りの参加があり、盛大に開催することができました。他の行事として吹奏楽団演奏会や歌舞伎鑑賞会の参加や恒例の野菜作りでは、スイカやキャベツ、ブロッコリーなどの野菜を収穫することができ、入居者の生きがい作りにも努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は地域の人との交流を積極的に行い、馴染みの関係が継続できるよう取り組んでいる。看取りについては3例の経験が有り、家族の希望により終末ケアを行うようにしている。「看取り」の介護教室を開催したりマニュアルの見直しをする等、職員の知識や技術の向上にも努めている。災害対策については、海に近い立地であることを考慮し津波を想定した避難訓練を実施したり、運営推進会議を活用し災害対策について検討している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームなぎさ

(ユニット名) せと

記入者(管理者)

氏名 梶山洋三

評価完了日 平成22年10月15日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 管理者と職員が理念を共有し、日々実践に取り組んでいる。ユニットの玄関に入居者直筆の理念を掲示し、地域の人や来所者にもわかり易くした。	
			(外部評価) 理念である「地域との交流」「穏やかな環境と安全安心の確保」を朝礼などで確認、共有している。また、理念を利用者に書いてもらい事業所内の見やすい所に掲示し、家族や外部の人にも理念を知ってもらったり、職員がいつでも振り返りができるようにして、日々実践するよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地区サロンとの交流会や地区行事への参加を通じて、地区住民との交流に取り組んでいる。	
			(外部評価) 地域で行われている活動や祭りに参加したり、他のグループホームと夕涼み会を行う等、積極的に地域や他機関との交流を持つよう努めている。また、事業所主催のいも炊き会には、近隣の方や利用者の家族等の参加があり交流も盛んである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地区サロンとの交流会で介護教室を開催し、介護技術について理解を深めてもらっている。人材育成のための介護実習生の受け入れも積極的に受け入れている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議での意見をサービス向上に役立てている。	
			(外部評価) 区長、民生委員、市や地域包括支援センターの担当者、家族等の参加を多数得て開催している。参加者からの質問や助言も多く活発な意見交換ができていたり、積極的に協力を申し出てくれる等、良好な関係が構築されていることが記録からうかがえる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市担当者が運営推進会議に参加することで、情報交換等をし、サービス向上に繋げている。	
			(外部評価) 介護福祉課の担当者が運営推進会議やサービス調整会に参加しており、相談や意見交換ができる関係が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束について、職員会議等で勉強会を行い、玄関の施錠をしないなど身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
			(外部評価) 職員は利用者の様子を把握することにより、玄関等の施錠を行わず利用者の自由な行動を妨げないよう努めている。また、言葉による拘束にも注意を払い、職員会や申し送り等で常に確認を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止について、全職員が意識を持ち、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 日常生活自立支援事業や成年後見制度について、勉強会を実施し、職員の意識付けをしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に重要事項説明書、利用契約書を十分に説明し、了解をもらっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会や運営推進会議などで利用者や家族の意見、要望、苦情を聞き、運営に活かしている。	
			(外部評価) 家族会は年1回4月に開催している。多くの家族の参加を得ており、意見や要望を聞き取る機会となっている。また、来訪時等にそれぞれの意見や要望を伝えてくれる家族もあり、運営に活かすよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見 意見や提案を聞く機会を設け、反映させてい る	(自己評価) 年2回人事考課を実施し、職員の意見や提案を聞き、 運営に反映させている。 (外部評価) 職員会で意見を言うことができ、出された意見を日々 のケアに活かせるよう取り組んでいる。また、年2回 の人事考課で意見や要望を書き提出することができる 仕組みはあるが、結果を職員に返す体制は十分とは言 えない。	職員の意見や要望に対する回答を行ったり、人事考課 等の機会をとらえて施設長と職員が話せる場を設定す ることで職員の意識向上を図ることが期待できるた め、今後の取り組みについて検討を望みたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時 間、やりがいなど、各自が向上心を持って 働けるよう職場環境・条件の整備に努めて いる	(自己評価) 代表者は利用者の状態把握のため、頻回に現場に来て いる。また、職員からの報告や意見を受け、職場環境 の向上に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を 受ける機会の確保や、働きながらトレーニ ングしていくことを進めている	(自己評価) 施設内外の研修参加を設けるとともに職員会で研修報 告をし、職員の介護知識、技術向上に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流す る機会をつくり、ネットワークづくりや勉 強会、相互訪問等の活動を通じて、サービ スの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者が松山市北条サービス会議に参加し、ネット ワーク作りや勉強会などを通して、サービスの質の向 上に努めている。また、研修会で他施設の職員と意見 交換を通じ、業務遂行に役立てている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が 困っていること、不安なこと、要望等に耳 を傾けながら、本人の安心を確保するた めの関係づくりに努めている	(自己評価) 入居事前調査を行い、本人の状態把握をするとともに 本人の不安や希望を聞くことで、本人との信頼関係を 築くことに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居事前調査を行い、家族からの相談を真摯に受け止め、問題解決に向けてお互い協力しあえるような関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族への支援を十分に職員が把握し、その時に応じた柔軟な対応をするよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人が安全、安心して過ごせるように、精神的支えとなるように信頼関係を築く努力をしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人と家族との関係が円滑に行くよう配慮しながら、本人を支えていくよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 外出時に馴染みの場所で馴染みの人に再会することで、以前の生活を回想できるような支援に努めている。 (外部評価) 地域の行事等に積極的に参加したり、ドライブで昔住んでいたところを見に行く等している。また、家族から情報を得る等して利用者が大切にしてきた馴染みの人や場所との関係継続に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 皆で一緒に行事に行ったり、外出したりして、共に過ごせる時間を持ち、支えあっている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居後も施設との交流会やその都度来所してもらったりして関わりを持つことを大切にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中での関わりを通じて、本人の意向や希望を聞き、把握に努め、本人本位に活かしている。 (外部評価) 日常の会話等から利用者一人ひとりの希望や要望を汲みとるよう取り組んでいる。希望を伝えることが困難な利用者については、家族の情報等から利用者の思いに沿えるよう検討をし、サービス提供に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族から生活歴や馴染みの暮らし方を聞き取り、把握している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 本人の馴染みの人や物、場所を把握し、外出時に回想できるような支援に努めている。心身状態や生活のリズムを把握し、その日の流れの中で、出来る事や役割を支援し、現状を把握している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ケアカンファレンスに家族の参加をお願いし、本人、家族の意見、希望を取り入れ、介護計画を作成している。欠席の場合は、事前に家族の要望を聞いている。	
			(外部評価) 入居時に利用者や家族の意向を聞き取りし、介護計画を作成し1か月で見直している。その後は3か月に1回もしくは変化のあった時に見直している。実施状況をチェック表で管理しており、気付いたこと等を記入できるようにしているため、毎月のモニタリングや次の計画を効率的に立案することができている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別ファイルを作成し、記録し共有することで、介護計画に活かしている。申し送りや休憩時間に職員間で気づきを話し合い、情報を常に共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の状況により、外出や外泊など柔軟に対応できるよう支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議に民生委員、地域代表、地域包括支援センター職員が参加し、情報交換や協力関係を強化する努力をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人、家族の希望を取り入れ、協力病院や他の医療機 関で適切な医療が受けられるようにしている。 (外部評価) 理事長が医師であり、利用者の健康管理を行ってい る。専門医や専門の医療機関を受診する際には、家族 に付き添いをお願いしているが、困難な場合は職員が 対応している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護職員を配置し、24時間体制で常に看護職と介護 職が連携をとりながら健康管理や医療支援をしてい る。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 協力医療機関と連携し、情報交換しながら、早期退院 に向けて相談に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した場合について、早くから家族と話しあい、 方針を共有している。ターミナルケアの研修会に参加 し、終末期のケア向上に努めている。 (外部評価) 終末期の看取りを今までに3件経験しており、その経 験は職員の自信にもつながっている。また、より実践 的なマニュアルになるよう作り直したり、看取りにつ いての勉強会を開催するなど終末期介護に取り組んで いる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 看護師が24時間体制で待機しており、すぐ連絡・指示を受け入れるようになっている。月に1回の介護教室や職員会の勉強会により、事故発生時の対応ができるよう訓練を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練を実施し、職員の防災意識を高めるとともに、近隣や地区の応援が得られるよう、避難訓練を通じて協力してもらっている。津波の避難訓練も実施している。 (外部評価) 運営推進会議の中で避難訓練等の災害対策について検討し、実施する際にも協力を得ている。また、津波に対する訓練も行ったり、マニュアルを整備する等災害に対する意識は高い。スプリンクラーの設置もされている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の立場に立ったケアをすることを最重点とし、個人情報の扱いについて十分注意している。 (外部評価) ホーム便りには許可を得られている利用者以外の写真は載せないようにしている。また、おむつ交換等は他の人から見えないように配慮をした上で行っている。各部屋の入り口の窓があるが、中が見えないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の希望を聞き、本人の選択肢を増やし、自己決定しやすいよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者の状態を考慮しながら、本人の希望を最優先して、本人のペースを大事にしながら支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 毎日衣服が同じにならないよう身だしなみに注意をし、その人らしい身だしなみができるよう化粧などができる支援をしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の希望に沿うような食事作りをし、職員と一緒に食事をしている。食事の下準備や食器拭きも職員と一緒にしている。 (外部評価) 年1回アンケートを実施する等、利用者の希望を取り入れながら職員がメニューを考えている。きざみ・ミキサー・とろみなど利用者の状態に合わせて食べやすいよう配慮がされており、食事を楽しむことができる。また、外食でお寿司などを食べに行くこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事、水分摂取を記録し、状態に応じた支援をしている。不足する場合は、好みの物を用意し、補えるよう支援をしている。食事前の口腔体操をし、食欲を高め、食事が楽しんでいただけるように言葉かけをしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後、就寝前の歯磨きや食前の口腔体操を実施している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) プライバシーに配慮しつつ、排尿・排便チェック表を使用し、利用者に合わせた排泄が出来るよう支援している。	
			(外部評価) 可能な限りトイレでの自然な排泄ができるよう、便秘傾向にある人は身体状況に応じて運動を勧めるなど排泄記録を確認しながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便チェック表を使用し、毎日のリハビリや散歩を通して身体を動かしたり、飲食物の工夫を通して、便秘予防に努めている。排便の情報を職員間で共有している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望を聞き、行事なども考慮しながら、楽しみながら入浴ができるよう支援している。また、個浴することで、一人一人とのコミュニケーションの場としても、ゆったりと時間がかけられるような支援をしている。入浴日以外に足浴を実施している。	
			(外部評価) 週3回、午後からの入浴を行っている。入浴を嫌がる利用者に対しては声かけを工夫し、気持ちよく入ってもらえるよう努めている。入浴用のリフトも設置しており、利用者の状態に応じて安全に入浴してもらえるように、職員が協力しあい行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活習慣を把握し、体調を考慮し、安心して休息したり、眠れるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬ファイルを作成し、服薬について全職員が理解すると共に誤薬防止のため二人の職員による服薬チェックを実施している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの生活歴に応じて、得意分野を見つけ出し、それを活かしたり役割を持ってもらうように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出時に本人の希望を聞き、偏りなく外出ができるよう支援している。家族の協力も得て、施設では行けない所に個人的に行く事ができている。	
			(外部評価) 外出を希望する利用者が多く、積極的に買い物や花見、観劇、地域の行事等の機会を見つけて外出支援を行っている。外出が困難な利用者は、体調や状況を見ながら日光浴等を行うようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 職員は本人がお金を持つことの大切さを理解し、買い物時は本人にお金を支払ってもらい、社会性の維持に努めている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族や知人に本人から電話したり、手紙を出す事ができるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室に利用者の馴染みのものを取り入れ、共有空間は利用者が心地よく過ごせるようにしている。また、穏やかに過ごせるよう空間作りを提供している。	車いすを利用している外出が困難な利用者が、庭で散歩や気分転換ができるような工夫についての検討を期待したい。
			(外部評価) 廊下に外出した時の写真等が掲示されていたり、季節を感じさせる飾り付けがされている。屋外の広い庭には菜園があり、季節の野菜を利用者が育てたり収穫を楽しんだりしている。また、ひなたぼっこをしながら犬の様子を窓から眺め楽しんでいる利用者もおり、思い思いに寛ぐことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用空間を広くとることで、一人ひとりがゆったり過ごしたり、利用者同士が会話できる工夫をしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 自宅から使い慣れた物を持ち込んだり、家族との思い出の物を持ち込んだりして、家族との絆を大切に過ごせるよう工夫している。	
			(外部評価) 家族の協力を得ながら、使い慣れた物や馴染みの物を自由に持ち込み、好みや利用者の状況に合わせてベッド等を配置し、居心地のよい居室環境を作り上げている。自分の好きなこと思い思いに過ごすことができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	(自己評価) 利用者のわかる力を職員は大切に考え、自立した生活ができるよう工夫している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871100263
法人名	社会福祉法人北条福祉協会
事業所名	グループホームなぎさ
所在地	松山市北条辻1170-22
自己評価作成日	平成22年10月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年12月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

東には雄姿な高縄山、西には中島や興居島をはじめとする瀬戸内海の島々を望むことができる風光明媚な場所に位置しています。窓を開けると、潮騒が聞こえ、ほのかに漂ってくる潮の香りは心を癒してくれます。入居者が楽しみにしている食事について、魚は鮮魚店、肉は精肉店、野菜は八百屋から地元の新鮮な食材を取り入れ、利用者の意見を聞きながら、いつもおいしいと言われる食事作りを目指しています。行事を通じて地域との関係を深めながら、「穏やかな環境作り」を進め、家庭的な安全・安心のある楽しい日々を過ごしています。健康管理や病院受診について、家族との連絡を密にし、家族との意向に沿って受診をしています。また、重度化に対応するために、早期から終末期のあり方について方針を共有しています。家族や地域との交流行事(忘年会、いもたき会)は、利用者の大きな楽しみの行事として定着しています。今年のいもたき会には入居者、家族、地域、職員を含めて90名余りの参加があり、盛大に開催することができました。他の行事として吹奏楽団演奏会や歌舞伎鑑賞会の参加や恒例の野菜作りでは、今年もスイカやキャベツ、プロッコリーなどの野菜を収穫することができ、入居者の生きがい作りに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は地域の人との交流を積極的に行い、馴染みの関係が継続できるよう取り組んでいる。看取りについては3例の経験が有り、家族の希望により終末ケアを行うようにしている。「看取り」の介護教室を開催したりマニュアルの見直しをする等、職員の知識や技術の向上にも努めている。災害対策については、海に近い立地であることを考慮し津波を想定した避難訓練を実施したり、運営推進会議を活用し災害対策について検討している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームなぎさ

(ユニット名) たかなわ

記入者(管理者)
氏名 梶山洋三

評価完了日 平成22年10月15日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 管理者と職員が理念を共有し、日々実践に取り組んでいる。ユニットの玄関に入居者直筆の理念を掲示し、地域の人や来所者にもわかり易くした。	
			(外部評価) 理念である「地域との交流」「穏やかな環境と安全安心の確保」を朝礼などで確認、共有している。また、理念を利用者に書いてもらい事業所内の見やすい所に掲示し、家族や外部の人にも理念を知ってもらったり、職員がいつでも振り返りができるようにして、日々実践するよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地区サロンとの交流会や地区行事への参加を通じて、地区住民との交流に取り組んでいる。	
			(外部評価) 地域で行われている活動や祭りに参加したり、他のグループホームと夕涼み会を行う等、積極的に地域や他機関との交流を持つよう努めている。また、事業所主催のいも炊き会には、近隣の方や利用者の家族等の参加があり交流も盛んである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地区サロンとの交流会で介護教室を開催し、介護技術について理解を深めてもらっている。人材育成のための介護実習生の受け入れも積極的に受け入れている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議での意見をサービス向上に役立てている。	
			(外部評価) 区長、民生委員、市や地域包括支援センターの担当者、家族等の参加を多数得て開催している。参加者からの質問や助言も多く活発な意見交換ができていたり、積極的に協力を申し出てくれる等、良好な関係が構築されていることが記録からうかがえる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市担当者が運営推進会議に参加することで、情報交換等をし、サービス向上に繋げている。	
			(外部評価) 介護福祉課の担当者が運営推進会議やサービス調整会に参加しており、相談や意見交換ができる関係が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束について、職員会議等で勉強会を行い、玄関の施錠をしないなど身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
			(外部評価) 職員は利用者の様子を把握することにより、玄関等の施錠を行わず利用者の自由な行動を妨げないよう努めている。また、言葉による拘束にも注意を払い、職員会や申し送り等で常に確認を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止について、全職員が意識を持ち、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 日常生活自立支援事業や成年後見制度について、勉強会を実施し、職員の意識付けをしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に重要事項説明書、利用契約書を十分に説明し、了解をもらっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会や運営推進会議などで利用者や家族の意見、要望、苦情を聞き、運営に活かしている。	
			(外部評価) 家族会は年1回4月に開催している。多くの家族の参加を得ており、意見や要望を聞き取る機会となっている。また、来訪時等にそれぞれの意見や要望を伝えてくれる家族もあり、運営に活かすよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 年2回人事考課を実施し、職員の意見や提案を聞き、運営に反映させている。 (外部評価) 職員会で意見を言うことができ、出された意見を日々のケアに活かせるよう取り組んでいる。また、年2回の人事考課で意見や要望を書き提出することができる仕組みはあるが、結果を職員に返す体制は十分とは言えない。	職員の意見や要望に対する回答を行ったり、人事考課等の機会をとらえて施設長と職員が話せる場を設定することで職員の意識向上を図ることが期待できるため、今後の取り組みについて検討を望みたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は利用者の状態把握のため、頻回に現場に来ている。また、職員からの報告や意見を受け、職場環境の向上に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 施設内外の研修参加を設けるとともに職員会で研修報告をし、職員の介護知識、技術向上に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者が松山市北条サービス会議に参加し、ネットワーク作りや勉強会などを通して、サービスの質の向上に努めている。また、研修会で他施設の職員と意見交換を通じ、業務遂行に役立てている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居事前調査を行い、本人の状態把握をするとともに本人の不安や希望を聞くことで、本人との信頼関係を築くことに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居事前調査を行い、家族からの相談を真摯に受け止め、問題解決に向けてお互い協力しあえるような関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族への支援を十分に職員が把握し、その時に応じた柔軟な対応をするよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人が安全、安心して過ごせるように、精神的支えとなるように信頼関係を築く努力をしている。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人と家族との関係が円滑に行くよう配慮しながら、本人を支えていくよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 外出時に馴染みの場所で馴染みの人に再会することで、以前の生活を回想できるような支援に努めている。 (外部評価) 地域の行事等に積極的に参加したり、ドライブで昔住んでいたところを見に行く等している。また、家族から情報を得る等して利用者が大切にしてきた馴染みの人や場所との関係継続に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 皆で一緒に行事に行ったり、外出したりして、共に過ごせる時間を持ち、支えあっている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居後も施設との交流会やその都度来所してもらったりして関わりを持つことを大切にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中での関わりを通じて、本人の意向や希望を聞き、把握に努め、本人本位に活かしている。	
			(外部評価) 日常の会話等から利用者一人ひとりの希望や要望を汲みとるよう取り組んでいる。希望を伝えることが困難な利用者については、家族の情報等から利用者の思いに沿えるよう検討をし、サービス提供に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族から生活歴や馴染みの暮らし方を聞き取り、把握している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 本人の馴染みの人や物、場所を把握し、外出時に回想できるような支援に努めている。心身状態や生活のリズムを把握し、その日の流れの中で、出来る事や役割を支援し、現状を把握している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ケアカンファレンスに家族の参加をお願いし、本人、家族の意見、希望を取り入れ、介護計画を作成している。欠席の場合は、事前に家族の要望を聞いている。	
			(外部評価) 入居時に利用者や家族の意向を聞き取りし、介護計画を作成し1か月で見直している。その後は3か月に1回もしくは変化のあった時に見直している。実施状況をチェック表で管理しており、気付いたこと等を記入できるようにしているため、毎月のモニタリングや次の計画を効率的に立案することができている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別ファイルを作成し、記録し共有することで、介護計画に活かしている。申し送りや休憩時間に職員間で気づきを話し合い、情報を常に共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の状況により、外出や外泊など柔軟に対応できるよう支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議に民生委員、地域代表、地域包括支援センター職員が参加し、情報交換や協力関係を強化する努力をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 本人、家族の希望を取り入れ、協力病院や他の医療機 関で適切な医療が受けられるようにしている。</p> <p>(外部評価) 理事長が医師であり、利用者の健康管理を行ってい る。専門医や専門の医療機関を受診する際には、家族 に付き添いをお願いしているが、困難な場合は職員が 対応している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 看護職員を配置し、24時間体制で常に看護職と介護 職が連携をとりながら健康管理や医療支援をしてい る。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 協力医療機関と連携し、情報交換しながら、早期退院 に向けて相談に努めている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 重度化した場合について、早くから家族と話しあい、 方針を共有している。ターミナルケアの研修会に参加 し、終末期のケア向上に努めている。</p> <p>(外部評価) 終末期の看取りを今までに3件経験しており、その経 験は職員の自信にもつながっている。また、より実践 的なマニュアルになるよう作り直したり、看取りにつ いての勉強会を開催するなど終末期介護に取り組んで いる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 看護師が24時間体制で待機しており、すぐ連絡・指示を受け入れるようになっている。月に1回の介護教室や職員会の勉強会により、事故発生時の対応ができるよう訓練を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練を実施し、職員の防災意識を高めるとともに、近隣や地区の応援が得られるよう、避難訓練を通じて協力してもらっている。津波の避難訓練も実施している。 (外部評価) 運営推進会議の中で避難訓練等の災害対策について検討し、実施する際にも協力を得ている。また、津波に対する訓練も行ったり、マニュアルを整備する等災害に対する意識は高い。スプリンクラーの設置もされている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の立場に立ったケアをすることを最重点とし、個人情報の扱いについて十分注意している。 (外部評価) ホーム便りには許可を得られている利用者以外の写真は載せないようにしている。また、おむつ交換等は他の人から見えないように配慮をした上で行っている。各部屋の入り口の窓があるが、中が見えないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の希望を聞き、本人の選択肢を増やし、自己決定しやすいよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者の状態を考慮しながら、本人の希望を最優先して、本人のペースを大事にしながら支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 毎日衣服が同じにならないよう身だしなみに注意をし、その人らしい身だしなみができるよう化粧などができる支援をしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の希望に沿うような食事作りをし、職員と一緒に食事をしている。食事の下準備や食器拭きも職員と一緒にやっている。	
			(外部評価) 年1回アンケートを実施する等、利用者の希望を取り入れながら職員がメニューを考えている。きざみ・ミキサー・とろみなど利用者の状態に合わせて食べやすいよう配慮がされており、食事を楽しむことができる。また、外食でお寿司などを食べに行くこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事、水分摂取を記録し、状態に応じた支援をしている。不足する場合は、好みの物を用意し、補えるよう支援をしている。食事前の口腔体操をし、食欲を高め、食事が楽しんでいただけるように言葉かけをしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後、就寝前の歯磨きや食前の口腔体操を実施している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) プライバシーに配慮しつつ、排尿・排便チェック表を使用し、利用者に合わせた排泄が出来るよう支援している。	
			(外部評価) 可能な限りトイレでの自然な排泄ができるよう、便秘傾向にある人は身体状況に応じて運動を勧めるなど排泄記録を確認しながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便チェック表を使用し、毎日のリハビリや散歩を通して身体を動かしたり、飲食物の工夫を通して、便秘予防に努めている。排便の情報を職員間で共有している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望を聞き、行事なども考慮しながら、楽しみながら入浴ができるよう支援している。また、個浴することで、一人一人とのコミュニケーションの場としても、ゆったりと時間がかけられるような支援をしている。	
			(外部評価) 週3回、午後からの入浴を行っている。入浴を嫌がる利用者に対しては声かけを工夫し、気持ちよく入ってもらえるよう努めている。入浴用のリフトも設置しており、利用者の状態に応じて安全に入浴してもらえるように、職員が協力しあい行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活習慣を把握し、体調を考慮し、安心して休息したり、眠れるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬ファイルを作成し、服薬について全職員が理解すると共に誤薬防止のため二人の職員による服薬チェックを実施している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの生活歴に応じて、得意分野を見つけ出し、それを活かしたり役割を持ってもらうように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出時に本人の希望を聞き、偏りなく外出ができるよう支援している。家族の協力も得て、施設では行けない所に個人的に行く事ができている。	
			(外部評価) 外出を希望する利用者が多く、積極的に買い物や花見、観劇、地域の行事等の機会を見つけて外出支援を行っている。外出が困難な利用者は、体調や状況を見ながら日光浴等を行うようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 職員は本人がお金を持つことの大切さを理解し、買い物時は本人にお金を支払ってもらい、社会性の維持に努めている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族や知人に本人から電話したり、手紙を出す事ができるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室に利用者の馴染みのものを取り入れ、共有空間は利用者が心地よく過ごせるようにしている。また、穏やかに過ごせるよう空間作りを提供している。	
			(外部評価) 廊下に外出した時の写真等が掲示されていたり、季節を感じさせる飾り付けがされている。屋外の広い庭には菜園があり、季節の野菜を利用者が育てたり収穫を楽しんだりしている。また、ひなたぼっこをしながら犬の様子を窓から眺め楽しんでいる利用者もおり、思い思いに寛ぐことができる。	車いすを利用している外出が困難な利用者が、庭で散歩や気分転換ができるような工夫についての検討を期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用空間を広くとることで、一人ひとりがゆったり過ごしたり、利用者同士が会話できる工夫をしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 自宅から使い慣れた物を持ち込んだり、家族との思い出の物を持ち込んだりして、家族との絆を大切に過ごせるよう工夫している。	
			(外部評価) 家族の協力を得ながら、使い慣れた物や馴染みの物を自由に持ち込み、好みや利用者の状況に合わせてベッド等を配置し、居心地のよい居室環境を作り上げている。自分の好きなこと思い思いに過ごすことができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者のわかる力を職員は大切に考え、自立した生活ができるよう工夫している。	